

発行所
石川県保険医協会
 〒920 金沢市尾張町1丁目9番11号
 尾張町レジデンス2F
 電話 (076) 222-5373 番
 FAX (076) 231-5156 番
 発行人 高松弘明
 印刷所 ソノダ印刷株式会社
 購読料 1年間 5,000円(千共)
 (*会員の購読料は会費に含まれます)

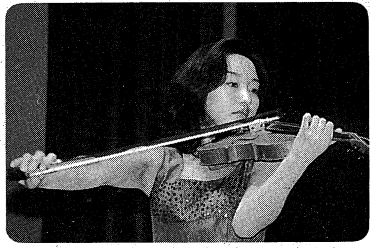
石川保険医新聞

●主な記事●
 2面 審査・指導・監査改善会議
 4面 黄色いハガキ(紙上討論)
 6面 「福祉マップ」好評
 7面 食べ歩き——友禅・タモア
 8面 マインド・コントロール②
 今月の会員数/871人(医科630人・歯科241人)

第2回 ドクターズ・ファミリー・コンサート 観客と舞台が一つに

アンコールと拍手の嵐

昨年引き続き、第二回 心となりました。ドクターズ・ファミリー・コンサートが十月十九日(日)午後六時より金沢読売会館ホールで開かれまし



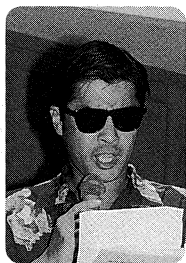
出口裕子氏



中村耕一郎氏



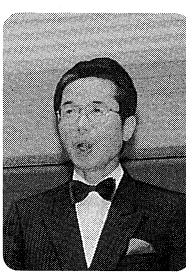
ドクトル・アイランダース



↑どちらも小森 貴 理事(司会)↑



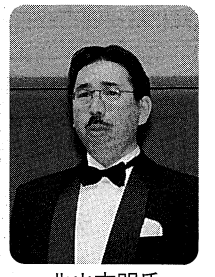
勝木ゆう子氏



藤村和昌氏



フィナーレは、みんなで赤とんぼを合唱



北山吉明氏

コンサートには総勢十三人のドクターおよびご家族、友人の方々が出演しました。司会は機関誌・文化部の小森貴部長が再度担当しました。

プログラムは二部構成で、前半はクラシックが、後半はポピュラー音楽が中心。三番は、藤村和昌先生の歌唱力で多くの観客の心を

超技巧の難曲を鮮やかなテクニックで演奏し、会場からは大きなため息が漏れま

持論

今、国会で「財政構造改革」法案が審議中だが、これは二〇〇三年までの国家予算の大枠を法律で決めてしまえば、社会保障費については来年度から三年間は前年比の二%程度しか自然増を認めない。医療費では自然増六千億円のうちの四千二百億円を削ろうというものだ。

「橋本六次行革」の目標は、歴代自民党政権がつくった国債二百五十四兆円の累積赤字を、消費税アップや国民生活関連予算カットで穴埋めし、一方では法人税引き下げ・規制緩和で多国籍化大企業を優遇し、公共投資計画と軍事費は事実上の聖域とするものである。

医療制度改革については、今年九月一日の健保法改定以前から厚生省案と与党案が出されている。両者に共通したねらいは、国民負担増と医療機関の締め付け強化によって国庫負担削減を計るもので、誰もがどこで

より重篤化を防ぎ、医療費節約に寄与している出来高払いを基本とすべきだ。モノ偏重の点数配分を見直し、技術と労働を正當に評価する報酬体系こそ必要である。医療保険制度では高齢者保険の創設を目玉にしている

が、明らかに大企業の要求と国保救済が理由と思われ、そのために高齢者に高負担させる制度には納得できない。最後に、医療提供体制の見直しでは医療機関の機能分担、病床および入院医療規制、医師数抑制、保険者機能強化、情報開示等々、いずれも極めて重大な問題だが、現時点では項目の羅列の観がある。逐次に具体化していくだろうから注目していかなければならない。

本年、イギリスとフランスで医療・福祉の切り捨てに反発した国民・労働者の結束が予想外の政治変動をもたらしたことから、政府の医療攻撃に立ち向かい、患者・国民と共同して阻止運動を進めようではないか。

患者とともに医療改善阻止を

患者とともに医療改善阻止を

患者とともに医療改善阻止を

患者とともに医療改善阻止を

患者とともに医療改善阻止を

患者とともに医療改善阻止を

医心凡語

今世紀末の今年になって、二人の世界的聖女が相次いで亡くなった。一人は八十七歳で天寿を全うし九月六日に、もう一人は三十六歳の若い身を自動車事故で八月三十一日に。一人はスラム街の聖女だが、ノーベル平和賞受賞のカトリック修道女。一方は王室名門の出身で、いつも華やかな色恋の綾を死の瞬間まで身にまとって離さなかった、いわば毒蛇に命を噛ませたクレオパトラのような絶世の美女。だが、どういうわけか「聖女」といわれているのも世紀末風というのか？ 私は、あえて「性女」と呼ばたい。

二人に共通して言えるのは、貧しき者への奉仕、社会事業への貢献、エイズ患者の救済や地雷除去などに献身した点である。一人は精神宗教界の王者であり、一方は王室名門の出身、現世(うつつよ)の名花である。一人は臨終の間際、「Please leave me alone!」の名言を吐いた。一方は、世界へのメッセージとして「Quo vadis Domine?」(主よ、どこへ行きたもう)と、辞世の句を残したかどうかは不明だが、この世の中を善と悪との二面に限って色分けすれば、両者は全く対照的な生き方で人生を結んだ。

一方は天にまします神の恩寵(おんちやう)天国へ。一方は火炎逆巻く無限地獄へ真つ逆様と、明暗を分けたのである。

事務局にパソコンが新たに二台導入され、一人一台体制となった。今後、LANの構築が終わると、保団連の情報通信ネットワークの進展とともに、石川協会も会員サービスの情報量が飛躍的に増大すると思われる。OA化の進展に伴い、理事会資料の印刷も今回より新しい形式になった。

第12回理事会 未然に防ごう 査定・返戻

(10月7日・10人出席)

議長からは、社保国保審査委員会の状況が全保険医に届いていないことからくる誤解とそのため起こる査定返戻を未然に防ぐ方法について話題提供があった。協会としては、審査の現状が医学、医療に沿ったものとなるよう努力していきたい。

(西田 記)

10月度理事会点描

まず、「福祉マップ(改訂第四版)」が立派に完成し、全会員と各関係団体に配布したとの報告があつて、編集委員各位のご苦労に感謝する。

ドクターズ・ファミリー・コンサートも昨年も増してハイレベルで大盛況であつた。

患者負担金増の健保法改定が施行されて二カ月近く、医療現場の不満と混乱は予想どおりである。政府は早くも薬剤負担と高齢者負担について見直し案を浮上させる朝令暮改ぶりである。加えて行財政改革の一環としての社会保障・医療制度

第13回理事会 抜本改革に向けて 理事座談会を計画

(10月21日・10人出席)

抜本改革案は、すでに始動している。協会ではこれらの総改悪に抗議し阻止する運動として、患者向け「医療を企画した。これは協会活性化のために、二十〜四十歳代会員の活動参加者の掘り起こしと医療保障制度などへの意識啓発を目的とした。

十一月十五日・十六日に予定されている北信越ブロック会議には、同日に東京で保団連ら国民大運動実行委員会主催の中央大会があるので、会長と副会長らが参加することにした。

十一月十四日の「抜本改革」についての理事座談会に向けて、各理事が勉強することも打ち合わせた。

(安藤 記)

審査・指導対策担当者会議

「点数を削ることは命を削る」と 患者と一体の運動強化を

西田 直己(金沢市・小児科)

十月二十六日 東京新宿 三省堂会館にて、一九九七年度審査・指導・監査改善対策担当者会議が開かれ、会議は始まった。

そのあと、民医連京都中央病院神田千明氏より、減点訴訟勝利に至る経過について、七年間訴訟を戦った当事者らしい、リアルな内容の講演があつた。

神田氏は、訴訟を維持し



石川から西田理事(中央)と神田事務局長が出席

はじめに河野副会長から、審査・指導の強化、不正請求攻勢の中、保険医の基本的権利である健康権を守るという一点で、患者

勝利するには一医療機関だけの対応では難しく、協会の軸とした広範な連携が必要(膨大な時間と人と資金がかかる)であること、さらに、どこまでも諦めない執拗な闘いによって「基本的勝利」を超えた画期的判決を勝ち取ったことなどを語った。そして、この裁判から、①戦うことなしには権利は実体化しない②日常的な闘いこそが裁判の支援となる③戦いの輪を全国レベルにまで広げる必要がある...守田訴訟と較べての反省④最終的には「点数を削ることは命を削ることなのですね」という患者さんの声にまで到達しなければならぬということを学んだと結論した。

次に、全国支払基金労組による貴重な資料を基にした講演(内容は紙面の都合で割愛)があり、午前の部を終了した。

午後は、各協会の運動交流が行われ、十五協会からの提案と活発な討論があつた。中でも目についたのは、長野協会、奈良歯科からの新指導大綱が実施されてからの平均点の動きと、京都協会から出ていた「黄色いハガキ運動」の行き詰まりからの脱却に成功

矯正歯科講演会(第4回窪田ゼミナール)

テーマ 矯正治療における早期治療を考える(その1)

講師 くぼた矯正歯科医院院長 窪田 正宏氏

- と き 12月7日(日) 午後3時~午後6時
- と ころ 金沢都ホテル 5階「能登の間」
- 参加費 会員=1,000円 未入会員=6,000円
- 申し込み 保険医協会までお電話で

した「グリーンペーパー」の紹介であつた。

長野、奈良の報告では、心配していたとおり、レセプト一件当たりの平均点数の抑制が起こっているとのこと。特に長野の場合は、昨年からの今年にかけてのトレンドが続くと、来年度には平均点の一・二倍以内はすべての医療機関がおさまってしまい、集団的個別指導が厚生省のもくろみどおり、低値安定で対象医療機関がなくなると予測している。

京都からの報告は、現役審査委員、協会担当者による黄色いハガキの検討会と

そこで導き出された結論を「グリーンペーパー」として会員配布することにより、問題事例の検討が再活性化し、会員のみならず審査委員会、医師会にも大きな反響を与えたというものであつた。

問 答

コウになります。白1で2に抑えるのは黒1に下がって無条件生きです。

(問題は8面にあります)

東京で機関紙関連3会議



石川から大平理事と杉野事務局員が出席

全国機関紙担当者交流集会

PDFで編集が変わる

新聞づくり最新事情に触れて

大平 政樹(金沢市・外科)

今年度の交流集会は新宿の三省堂文化会館で十月二十六日に開催された。前日の夜遅く新宿駅に降り立った私は、事前に渡された簡単な地図を頼りに、宿舎のホテルへと歩き始めたのだ。

今年度の交流集会は新宿の三省堂文化会館で十月二十六日に開催された。前日の夜遅く新宿駅に降り立った私は、事前に渡された簡単な地図を頼りに、宿舎のホテルへと歩き始めたのだ。

全国機関紙担当者交流集会前日の十月二十五日(土)夜、東京新宿の保団連会議室で第二回保団連新聞部会が開かれた。

主な議題は今年度後半期の部活動についてで、モニター制度の推進や、「広告」の取り扱いなどについて話し合われた。

保団連は、現在パソコンとDTPソフトによる新聞編集を行っており、フルデジタルの紙面づくりをしています。フルデジタル化されたことにより、新聞の品質を落とすことなく(むしろ以前より)、新聞作成経費を大幅に削減することに成功しています。また、インターネットのホームページ上にもデジタル情報として掲載できますし、大幅なコストダウンになる

合本のCD-ROM化も検討しているそうです。石川協会でもパソコンはもちろん、原稿の送受信や情報収集にインターネットも日常的に使っています。わが石川協会の編集会議と根本的に違うのは、「笑い」と「余談」が少なくことです。「新聞づくりは楽しく和気あいあい」と「良い企画は余談から」「たまにはお酒を飲みながら」という石川協会編集部の motto を紹介したかったのですが、不謹慎と受け取られると困りますので、遠慮しました。

第2回保団連新聞部会

きれいになった全国紙

います。DTPについては、コストダウンと設備投資についても少し研究を要しますが、積極的に導入を検討して、デジタル時代への対応に遅れ

「全国保険医新聞」のコラム「羅針盤」について、若干の変更がありました。関係ある内容が求められていたが、今後は、もっと自由に医療の周辺の問題についても掲載していこうということになりました。

(事務局 杉野)

が、林立する高層ビル(実信する。そうしたことが今は新宿に来るのは生まれて初めてなのであった)、きで簡単にできることを強調するにはアベックや浮浪者が呼ばれるフォーマットを使えば、今までは比較にならないほど、新聞や雑誌のレイアウトが容易にできる。東京は嫌いだ。

午前十時半より始まった集会は、午前中は「インターネット時代の新聞製作」と題して、浅井豊彦氏の講演があった。氏は保団連の新聞や出版に関わっている会社の方で、特にDTP(コンピュータを使った編集作業)のエキスパートとして活躍されている。

インターネットという情報は洪水の中で、そのデジタル情報をホームページやメールを通して収集し、素材を自在に加工、そして発

報告があった。割愛。

'98新年号の原稿募集中

来年はトラ年です。保険医新聞では、新年号の編集を始めます。

今年度の読者投稿のテーマは「トラ」。トラ、バ、ユ、トラベルなど、見出しにトラを付けられる話題なら何でも構いません。字数は六百〜八百字、締め切りは十二月五日必着でお願いします。

カラー面の写真投稿は、テーマを問いません。五十程度程度の写真説明とともにごしごし投稿下さい。

(編集部)

十月二十五日に開かれた保団連全国機関紙交流集会終了後から翌二十六日の終日にわたり、機関紙担当事務局員を対象にした「DTP研修会」が開かれました。一人一台のパソコンを利用して、「エディカラー」という最新のDTPソフトを使い、紙面の編集を実習しました。

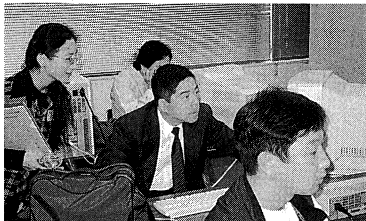
新聞を編集するためのDTPソフトは高機能のため、これまで熟練した編集者の「カン」に頼ったレイアウトも、比較的簡単に取組むことができます。失敗しても何度でもやり直すことができ

DTP研修会

ディスク・トップでパブリッシング

ホームページの開設や協会業務のデジタル化を進めていくためには、積極的に導入を検討する時期であることは間違いなさそうです。

一人一台のパソコンで、しかも保団連事務局を含めたインスタラクターがたくさんいたことで、大まかな新聞紙面を作成する操作を学ぶことができました。実際にフルデジタルの紙面づくりには、写真やイラストを扱うためのソフトの習熟や、複雑なレイアウトをするための緻密な技術の取得が必要ですが、収穫の多い研修会でした。



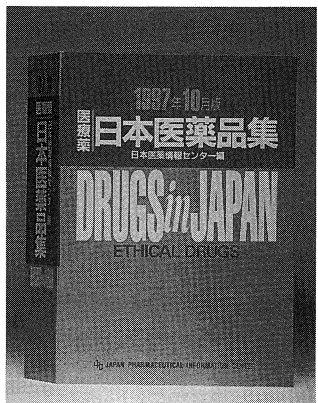
DTP編集に真剣に取り組む杉野事務局員(中央)

「最後に慣れるな」という印象でした。ただ、石川県では出力(実際にデジタル化したデータを印刷のために製版する)の問題があることと、コストの面でまだまだ検討を要します。しかし、今後、

(事務局 杉野)

医療薬 日本医薬品集

一九九七年 十月版



■(財)日本医薬情報センター 編集

■(株)薬業時報社 発行

■書籍のみ

→B5判、2,280頁、定価23,100円(税込)

送料914円

書籍とCD-ROM 2点セット函入り

→定価44,100円(税込)、送料1,050円

■お申し込みは書店へ。または、定価と送料を直接発行元の(株)薬業時報社(電話 東京.03-3265-7751、大阪.06-231-7061)へお振り込み下さい。

【振替00130-7-48330】

黄色いハガキ

骨粗鬆症のX-Pについて 紙上討論が続いています。

《第112例》国保

虚血性心疾患の病名で、ニトロゲームTTSが返戻されました。

<主治医の意見>

「狭心症」は「虚血性心疾患」に含まれる概念であり、医師になって20年、後者を病名として使用していた。今までこの理由で返戻されたことがないので、今後はその基準を明確にしてもらいたい。

<協会のコメント>

ニトロゲームTTSの適応症は狭心症となっています。確かにこのような返戻は、主治医の指摘されるように医学常識からかけ離れた内容となっています。

最近、保険者からの再審査請求が急増しており、審査委員会ではその対応に追われているようです。このため第1次審査では、適応症にもとづく審査を重視する傾向があり、返戻件数が増えています。

保険医協会では、薬剤に関する審査は機械的な適応主義でなく、薬理作用にもとづいて行い、医師の裁量を十分に考慮することを要望しています。

今後一層、審査改善の運動が重要になっていきます。



<本紙10月号「骨粗鬆症のX-P」についての内科会員からの意見>

『石川保険医新聞』10月号に掲載された「黄色いハガキ」の骨粗鬆症について、協会のコメントの内容がやや弱いと思いますので、私の意見を言わせていただきます。

原発性骨粗鬆症の診断基準は、1996年改訂版で下記のように決められています。すなわち、本症の診断には腰椎と胸椎のX線検査により、腰椎と胸椎(正確には脊椎)の圧迫骨折の有無を診断することが必須です。逆に言えば、腰椎と胸椎のX線検査をせずに骨粗鬆症の診断を付けることはできません。

そして、病名の付け方ですが、新鮮で症状の強い圧迫骨折には「圧迫骨折」の病名を付けた方がよいと思いますが、骨粗鬆症の重要な症状として圧迫骨折があるわけですから、骨粗鬆症の病名があれば圧迫骨折の症状名は原則として

不要と思います。感冒の病名に発熱の症状名を書く人はいません。

もう一つ、医学適切、医療適切、保険適切、財政適切という言葉が出てきます。私は、医学適切に関しては、医学研究に属する医療行為は保険適応がなくてもいいと思います。財政的理由で査定するのは、審査委員会の権利の乱用で法律違反です。医療適切と保険適切に関しては、健康保険法で混合診療が認められないわけですから、先進医療などの一部の例外を除き、「医療適切がすべて保険適切」であるべきです。そして、このことを保険医であるわれわれが、いろいろな機会に主張すべきです。私が返戻されたレセプトの弁明に時々、「この医療行為を査定するか否かの権限は貴職にあり、そして、貴職の判定はどちらであろうと、医療と医学的正義は私にある」と書きます。(内科医)

<協会のコメント>

一枚の黄色いハガキがきっかけで、保険診療に対して真剣な気持ちで取り組んでいる会員が多数いることを実感した次第です。

骨粗鬆症における胸椎レントゲン写真の適応に関する黄色いはがきをめぐり、紙上討論が続いています。こんな形で紙上討論が発展することは、学術・保険部として大変うれしく思っていますし、大いに歓迎します。というのは、最近黄色いはがきへのコメントがいわゆるローカルルールを含めた現状追認的なものとなっていることに少なからず危惧を抱いていたからです。それと同時に、黄色いはがきそのものが衰退気味となっていたことも心配の種でした。

前回のコメントでは、おそらくそうであろうという推定から審査の現状を述べたもので、そこから導かれる心配を書かせていただいたつもりでした。ところが、今度は協会の立場として、軟弱過ぎるというおしかりを受ける羽目になってしまいました。

そこで、前回のコメントの続編を述べてみたので、お付き合いいただければ幸いです。

保険適切が財政適切にどんどん近づいている気配をひしひしと感じているのは協会会員のほとんどだと思います。保険診療が多くの医療行為における契約である以上、無制限というわけにはいかないのは当然です。しかし、疾病が個々のものであるということに目をつぶり、財政的に適当なところで妥協し、これこれでは月何

回までとか、月一回の算定ができるのかというルールが厳然と存在しているのが、今行われている診療報酬請求ルールです。このルールもはじめは、なにがしかのコメントを付ければ、特別な症例では決められた範囲を超える部分を認めていたものが、年月を追うごとに画一的になり、保険者も堂々と査定するようになってきました。

このような査定が日増しに多くなり、これが積み重なって莫大な金額になっているのではないのでしょうか。個々の保険医からすれば、一つ一つは寡少な金額であるためか、再審査請求もせずに過ごしている中に、保険者も厚生省も保険医甘しと見て取ったのか、こともあろうにマスコミを利用して、保険医を不正請求の張本人呼ばわりしました。保団連も、協会(複数)も日医もこの攻勢に躍起になって防戦していますが、もはや保険医は悪人であるという間違いが日本中に広がってしまいました。

医師として、しっかりした医学的裏付けに基づいて診療しているから、査定されようが指導があろうが監査があろうがいつにかまわれないという考えの会員も多いと思われます。しかし、最近の情勢は、それだけでは通用しなくなっているような気がしてなりません。

保険診療における契約内容を保険医にとってどんどん悪いものにし、医学常識からかけ離れたところで、契約違反だから不正請求しているのだと罵られそうな気がするのです。保険者は、自らの財政事情のために膨大な数に上る再審査請求と、それにより得られた査定の実事を少しずつ積み上げ、適応外の請求を少しでも少なくするよう地道な努力をしてこまできました。これを切り崩すには、保険医も保険診療の中で、患者のための良い医療を目指して、医学常識からみて認められないような査定はきちんと再審査請求するなど、地道な努力をしていく必要があります。

保険医協会は、そのためのバックアップをいささかも惜しむものではありません。そして、いつでもどこでも誰でもが、保険でよい医療を受けられる日本を作っていくのが協会活動の原点であると思うのです。

今後も、会員諸氏の忌憚のないご意見をお待ちします。たくさんの方の会員参加の下で、改善運動を展開しようではありませんか。

(学術・保険部)

納得いかない返戻、査定がありましたら、ぜひ黄色いハガキにてお知らせ下さい。

黄色いハガキはE-mailでも大歓迎です。

会員から「黄色いハガキをE-mailでも送れるようにしてほしい」との要望がありました。事務局では黄色いハガキに限らず、会員から送付された原稿はすべてテキストファイルに入力し直しています。このため、E-mailの原稿は大きく省力化になり、大歓迎です。ぜひ、E-mailでお送りください。ニフティサーブ、インターネットのいずれでも結構です。

Nifty-Serve ID : XLH01047

E-mail : XLH01047@niftyserve.or.jp

日本地域福祉学会東海北陸ブロック地方部会研究集会

介護保険導入に 現場からの不安の声

日本地域福祉学会東海北陸ブロック地方部会研究集会が十一月一日、二日の両日にわたって小松市で開催された。協会からは、二日目のシンポジウム「介護保険と地域づくり」に事務局二人が参加した。百二十二人の参加者のほとんどが、社会福祉協議会職員、ホームヘルパー、施設職員など実際に福祉の実務に携わっている人であることから、シンポジウムの内容は、住民主体の福祉コミュニティ形成における介護保険の位置づけという点に集中した。

以下、シンポジストの中で、特に東洋大学の太友信勝教授の報告を中心に紹介する。

氏は、当事者本位の視点から、公的介護保険について次の問題を指摘する。①当事者本位の視点が貫かれているか(被保険者を六十歳以上の高齢者に限定し、障害をもつ人を含んでいない)②利用者の尊厳が守られているか(サービスの絶対量が充実していない)③契約制度の利点としてあげられている「選択」は(不可能)④だれもが利用できるか(保険料未納者および滞納者へのペナルティは厳しすぎないか)⑤要介護認定とケアプラン(A・D・L中心で、生活・人間そのものをトータルにとらえる視点が弱い)。そのうえで、公的介護保険構想に対して、福祉のまちづくりのために、老人保健福祉計画の目標達成を最低限の条件としつつ、情報公開と当事者参加の必要性を力説する。制度に関する情報公開と当事者の共同の学習、政策の立案・形成への当事者参加、サービス運営への参加、サービスマニエールへの参加、権利擁護と苦情処理システムの確立、これらがな



2日目に開かれたシンポジウム

第12回 保団連医療研究集会

《メインテーマ》
いのちを守る
人権・医療・震災

日時 11月22日～23日
会場 神戸国際会議場 ほか

11月22日●全体集会

- 15:30～ オープニングセレモニー
- 16:00～ メインテーマでのシンポジウム
 - パネリスト/浜岡政好(大阪大学教授、野田正彰(京都芸大教授、安原幸彦(弁護士、辻本好子(COML代表
 - コーディネーター/野村拓氏
- 19:00～ 懇親会(会費制)

11月23日●分科会 9:00～16:00

- 第1分科会 「在宅ケアの取り組み」
- 第2分科会 「内科・日常診療の研究」
- 第3分科会 「歯科・日常診療の研究」
- 第4分科会 「医療における連携」
- 第5分科会 「医学史・医療運動史」
- 第7分科会 「環境破壊・公害対策」
- 第8分科会 「日常診療でのパソコン活用」

晩秋の神戸 オプションツアー

神戸市内観光 六甲山・有馬温泉、
一泊旅行 生命誌研究館見学

主催：全国保険医団体連合会
主務：兵庫県保険医協会

◎お申し込みは保険医協会までお電話で
☎076(222)5373

歯科は四十歳まで、医師は五十歳までの、今後の保険医協会の担う役割の集いという(私には場違い?)「若手医師・歯科医師の集い」会議に参加してききました。

初日十月十八日は徳島県の医師のバンドの演奏と、福岡県の会員のマジックを見ました。

参加者は五十人弱でした。討論は、非常に活発なのに圧倒されてしまいました。自由にものが言える保団連ならではの雰囲気でした。そしてその末にも展望があるのではないかと思えました。

十九日の討論では日本医師会、日本歯科医師会との関係が討論になりました。この関係が討論になり、さきを改めて感じさせました。と同時に、介護保険の具体的な在り方を熱心に検討する様をみて、福祉関係者の問題意識の深さに意を強くしました。もちろん、介護保険制について、その導入の可否を検討することが大切なのは言うまでもない。が、

(事務局 工藤)

歯科部会では、日本歯科医師会はすでに国民の意見が出されました。それに対して日本医師会についても、同様な意見がありました。地方によっては、京都などのようにうまく付き合っているところもあるのだからといった意見も出されました。

自由診療が進む中で、「保険で良い入れ歯を」行うほど経営的には赤字になるという実態は、医科部門の矛盾を先取りしていると思えました。

医療「改革」関係では、反対だけでなく、積極的に保団連のビジョンを訴えていく必要があるとの意見が出されました。ただピラを渡すだけでなく、一声かけることの重要性も指摘されました。

保団連若手医師・歯科医師の集い

自由にものが言える保団連

岩瀬 俊郎(金沢市・内科)

「保険で良い入れ歯を」行うほど経営的には赤字になるという実態は、医科部門の矛盾を先取りしていると思えました。

医療「改革」関係では、反対だけでなく、積極的に保団連のビジョンを訴えていく必要があるとの意見が出されました。ただピラを渡すだけでなく、一声かけることの重要性も指摘されました。

新刊案内

「今後の「医療改革」に立ち向かうために」
「ドイツの教訓」

ドイツ歯科医療事情
視察団入手資料集

今年三月、保団連歯科協議会主催のドイツ歯科医療視察団によって現地へ入手された貴重な資料集が、このほど翻訳出版された。

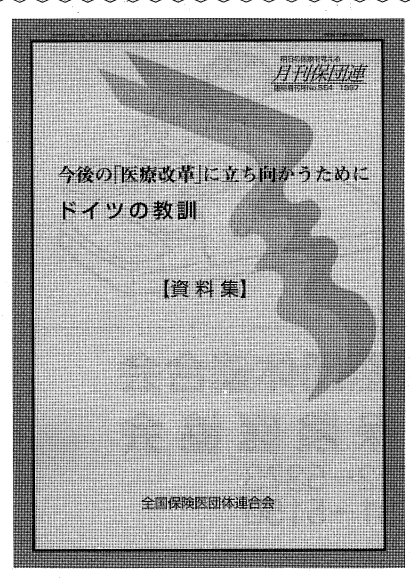
現在、政府の計画している医療「抜本改革」は、ドイツの医療改革を見本にしているといわれているにもかかわらず、これまでドイツに視察団を派遣した厚生省、日本歯科医師会、健康保険組合連合会、連合は、現地の資料をほとんど公表していない。

今回出版された資料集には、それぞれ公的な立場の責任者が発言した最新の見解も収録されている。歯科分野に限らず、

今年三月、保団連歯科協議会主催のドイツ歯科医療視察団によって現地へ入手された貴重な資料集が、このほど翻訳出版された。

現在、政府の計画している医療「抜本改革」は、ドイツの医療改革を見本にしているといわれているにもかかわらず、これまでドイツに視察団を派遣した厚生省、日本歯科医師会、健康保険組合連合会、連合は、現地の資料をほとんど公表していない。

今回出版された資料集には、それぞれ公的な立場の責任者が発言した最新の見解も収録されている。歯科分野に限らず、



【資料集】

全国保険医団体連合会

マスコミも注目!

県内の開業医や歯科医で組織する県保険医協会(高松弘明会長)は、このほど、市町村の医療福祉制度をまとめた『福祉マップ』の改訂第四版を出版した。A4判、二百五十頁、平成五年十月以来の改訂で、今回は県内四十一全市町村の福祉制度を各二頁の見開きで紹介、市町村ごとの老人保健福祉計画の目標と現状が一目で分かる一覧形式の掲載も新たに盛り込んだ。第一部は利用する割合が高い医療制度などの解説、第二部は市町村の制度紹介、第三部は施設の一覧と行政や相談窓口などの資料編として構成した。第一部は、医療福祉のハンドブックとして役立つ。九月一日

から施行の健康保険法の改正にも触れ、医療費や外来薬剤費など、高額医療費制度などの各制度の記述では、医療費の内訳も中々が対象になるのかも表で示す工夫も。新たに市町村別制度をまとめ、第二部は、市町村へのアンケートをもとに最新のデータも掲載。福祉制度の格差なども把握できる。第三部では、患者団体などもできる限り掲載した。

『福祉マップ』改訂第4版を出版

11月1日付「北陸中日新聞」に掲載された福祉マップの紹介記事

『福祉マップ』好評!

協会に連日多数の問い合わせ

本紙十月号でもお知らせしたとおり、『福祉マップ改訂第四版』が発刊になりました。会員の皆さんをはじめ、資料提供などでお世話になった関係先にはすでに配布しましたので、手に入れている方も多いいと思います。

発刊から一カ月たらずですが、すでに様々な反響があります。協会事務局には、連日、注文の電話・ファックスが寄せられています。養護老人ホーム・老人保健施設・保健福祉センターなどの施設や市町村役場、看護協会、医療機関、患者会などからも大量注文を受けています。地方議会議員からも購入申し込み

さらに、市民の皆さんに「医療・福祉ハンドブック」として、活用していただけるよう普及に努めています。医療や福祉に関する講演会・シンポジウムなどに積極的に持ち込み、多くの方にお買い求めいただくことができました。また、北陸新聞と北陸中日新聞(本ページに記事を転載)等での掲載も受けました。また、ご意見や訂正を必要とする箇所についての指摘もあり、本ページ掲載の正誤表にきつそく反映させることができました。改訂版の発刊が医療福祉関係者から待ち望まれていたことを痛感しているところです。

市民からも注文相次ぐ

をお勧めします。なお、『福祉マップ』を販売している書店は、次のとおりです。

荒屋書店/うつのみや書店
/王様の本/金沢大学生活協同組合/政府刊行物サービスセンター/ナカニシ書店/なかもり書店/白山書店/福音館書店/北国書林(五〇音順)

『福祉マップ』正誤表

石川県保険医協会発行の『福祉マップ』改訂第4版に誤植がありました。お詫びいたしますとともに、下記のように訂正します。

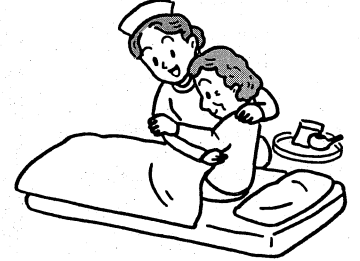
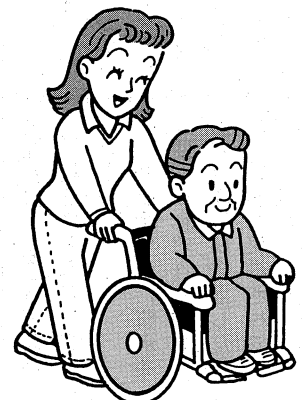
該当箇所	誤	正
P34 上から1行目	高齢者施設の人員・施設基準比較表	高齢者施設の人員・施設基準比較表 (定員100人につき)
P35 上から3行目	家族復帰	家庭復帰
P241 上から12行目	泉野福祉保健センター (076)241-1131	泉野福祉保健センター (076)242-1131

『福祉マップ』(改訂第4版)は、会員医療機関にすでに無料で配布しています。追加注文は、一冊千五百円(送料別)にてお送りします。

新刊 公費負担医療等の手引

1997年11月版

体裁 B5判260頁
定価 3,000円
会員特価 1,500円(送料共)



『公費負担医療等の手引』が2年ぶりに改訂され、11月中旬に発刊となります。9月に実施された医療保険改定・薬剤一部負担の導入を反映させた内容になっており、薬剤一部負担と各公費負担医療との関係もそれぞれ制度ごとに解説してあります。また健康保険、国民健康保険、医療法、老人保健法、結核予防法、精神保健福祉法、更生医療、労災医療、公害医療について大幅に改訂されています。窓口事務に必読のテキストです。右記の要領にて会員特別価格で斡旋します。

■主な項目

- * 50音別公費負担医療等適用疾患一覧
- * 医療保障制度についての基礎知識
- * 医療保険制度
- * 医療保険の諸給付
- * 医療法
- * 生活保護法の医療扶助
- * 老人に関する制度
- * 児童・母子に関する制度
- * 身体・精神障害に関する制度
- * 原爆・戦傷病者の医療
- * 特に定められた疾患に関する制度

発行 全国保険医団体連合会
申し込み 石川県保険医協会
電話 076-222-5373
FAX 076-231-5156



満腹の参加者のみなさん(10月29日)

秋の 食べ歩き会

—韓国料理・居酒屋— 友禅・夕モア

金沢市野町1丁目1の25
☎076(244)5915

カップサイシンで パワーアップ

瓢箪町耳鼻咽喉科医院院長
石丸 幹夫

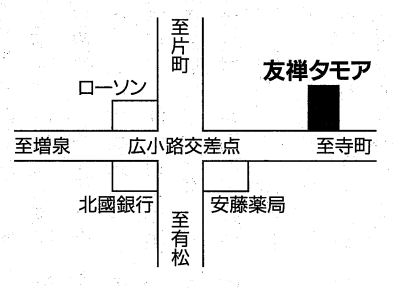
今回は珍しく韓国料理で、愛好者にとっては大変うれしい企画ですが、「辛い」「ニンニクのおい」が、敬遠される人も多いようです。しかし、これがまた堪えられない魅力でもあります。

所は野町一丁目ですが、野町広小路の寺町側にある「友禅夕モア」という韓国家庭料理店です。私は数回行ったことがあります。

「タモア」とは、「皆集まれ」という意味だそうです。店の二階の座敷に十六人が入ると、もういっぱいです。テーブルには多くの皿のごちそうが、どさどさ並びました。日本料理やフランス料理のように、少しずつ追加される方式とは違いうようです。韓国では「机の脚が曲がるほどのごちそう」と表現しますが、韓国のサラリーマンの昼食でも十七皿もあると言われています。

さて、われわれはまず、高麗人参酒で乾杯。独特の人参のにおいは胃粘膜を刺激します。テーブルには三色巻き韓国酢の物(カニ、ネギ、イカ)、和え物二種(クラゲ酢の物、イカ刺し身と和え物)、キムチ三種(白菜、キュウリ、大根)、ナムル三種(大豆モヤシ、ホウレンソウ、ゼンマイ)、韓国カボチャのお粥(小豆と米粉入り)、チヂミ盛り

合わせ、韓国式串焼き(松茸、シイタケ、長ネギ、牛肉)と大根のスープ、カルピチム(大根と豚肉の煮物)、チャプチェ(はるさめいため)などが大体一度に出ました。これらは韓国家庭で大きな行事がある時に出される料理だそうです。お酒はビール(これは日本製でしたが)とトントソ(濁り酒、マツカリでドロドロですが、以外と口当たりがよく、おいしいお酒で、白酒の感触で女性にも人気があります)でみなさんもじゃんじゃん飲みました。



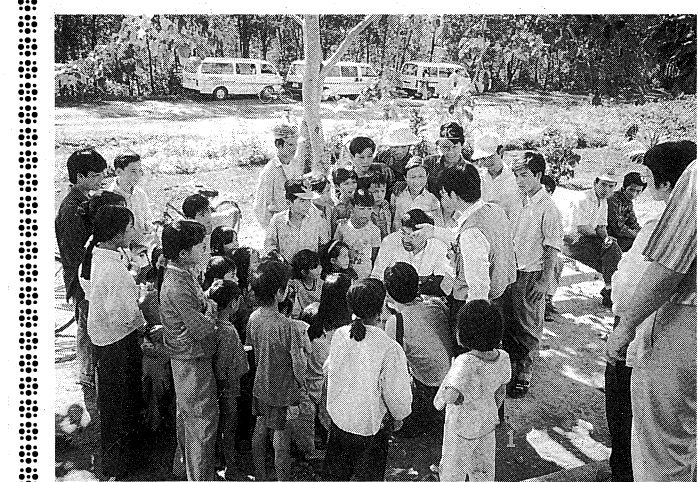
唐辛子のカップサイシン、人参、ニンニクのせい、消化器はしっかり働いてくれました。悪酔いも胃もたれもまったなく、元氣あふれ、二次会に行く人も。私は自宅までの三キロの道のりを歩いて帰りました。

食事をしながら、やはり話題は韓国のことになりました。ちょうど北陸大学国際交流員の鄭貞植氏もいて、いろいろと韓国の勉強ができました。ドクターにもかなり詳しい方がいて、

ドクターズ・ファミリー・コンサートのVHSテープを 希望者に実費でお譲りします。

ドクターズ・ファミリー・コンサートの模様全部を録画したビデオテープができました。希望者には実費千円でお届けします。

なお、HIBに録画したマスターから、保険医協会の骨董品のようなビデオデッキでダビングしていただきますので、多少、写りが悪い点はご了承くださいませ。



診察の合間に即席の日越会話教室

服部真ドクターの ベトナム訪問記 (10回シリーズ)

ベトナムの光と陰 *第6話*

枯れ葉剤が撒かれた 元森林地帯を歩く

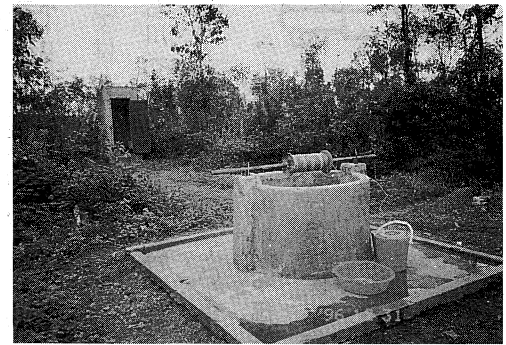
一日目(十一月三十一日)からは、朝食時間を削るために、フランスパンと水を買って六時に出発。九時には診察開始。

午後からは、山奥のカム・ギアまで車で一時間。中部では、私たちの訪越直前まで雨期の洪水が残り、カム・ギアへの道はぬかるんだ。最後は、荷物をかきつけて歩くはめになった。亜熱帯にも関わらず、禿げ山や草原に枯れすすきも生え、北海道と本州の秋を合わせた風景に近い。

診察場所に使った医療所は、瓦とセメントによる建物で、助医(日本の保健婦)と助産婦が常勤している。薬品庫には、シメチジンやゲンタマイシンもあつ

たが使われていない模様。工事現場で使う仮設トイレのようなものが建物の裏にあり、女性や大便可も。しかし、井戸に近いため、場所を変えるように人民委員会の責任者に提言した。各所に文化トイレのボスターあり。

貧しいてんかん児の治療や各地区で年に一人は冤唇の手術を行う海外からの援助システムがあり、未治療のてんかん児の登録を依頼した。この障害児家庭(おそろく一般家庭)は、カム・タンより貧しく、見るからに栄養不足の母子が多い。食事を聞くと、判で押したように、一日一〜三回、米と野菜、時々魚や肉と答える。実際には、毎日一食、米と野菜の雑炊だけだ。仕事は、家庭菜園程度の畑と庭先での胡椒栽培や胡椒農園(第三セクター)でのアルバイトしかない。町ではバイク、田舎では自転車の中流の象徴だが、この地区では自転車もない家が多い。



保健所の裏にある井戸とトイレ

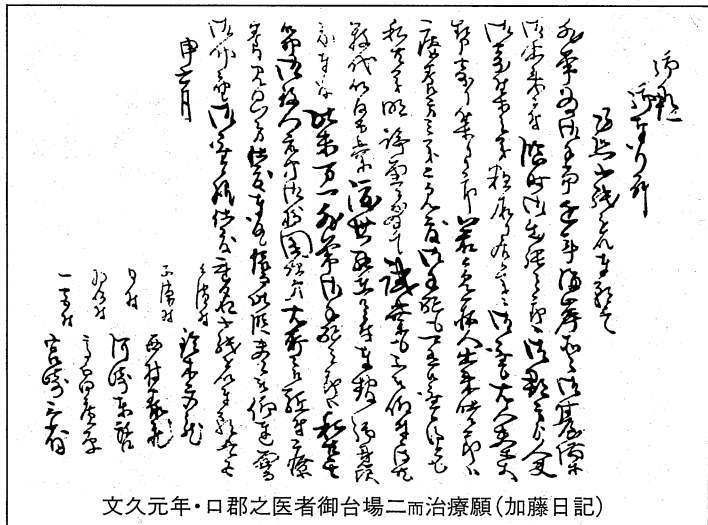
石川県医事文化史跡めぐり

<30>

幕末、羽咋・鹿島の医師名簿

——能登羽咋十村・加藤日記から——

多留淳文 (日本医史学会評議員) 金沢市・内科



文久元年・口郡之医者御台場二而治療願(加藤日記)

石川県教育委員会『歴史の道調査報告書』第4集 能登街道II, 1997.

ひよんな所から貴重な 久元年(二八六一年)に 医療出動願いを十村に 提出したという記事があつ た。

「歴史の道調査報告書」 指す)の医師二十人が御 第四集を見ていたら、文 台場で急病人発生した際

この御台場は嘉永四年 (二八五一年)に海防の ため砲座を設置した今浜 (押水町)のものである が、海食で現在は跡もな い。

早速、『能登羽咋十村、 加藤日記』(羽咋歴史民 俗資料館、一九九七)を 調べて二十人の医師名が 分かった。その横に、出 動願いの理由となった 「天保十二年五月、医師 希望の者は明倫堂で試験 すべきこと」の御触も記 載されている。

以下、文久元年の羽咋 郡市・七尾市・鹿島郡の 医師名簿を掲げる。(括 弧内は現在の地名)

高島広平・羽咋村(羽 島郡鹿西町能登部下)、

昨市)、宮崎三省・一宮 真館良玄・武部村(鹿島 村(羽咋市一宮町)、勝 郡鹿島町武部)、吉田昌 見竜輔・千路村(羽咋市 千路町)、鈴木文蔵・今 浜村(羽咋郡押水町今浜、 西村泰蔵・子浦村(羽咋 郡志雄町子浦、河崎環・ 大念寺新町(羽咋郡志賀 町高浜)、渡辺元敬・大 念寺新町(羽咋郡志賀町 高浜)、小林常庵・安津 見村(羽咋郡志賀町安津 見)、嶋田養安・福浦村 (羽咋郡富来町福浦)、野 村方策・三階村(七尾市 西三階町)、橋玄道・若 林村(七尾市若林町)、 奥井貞良・江曾村(七尾 市江曾町)、小林玄貞・ 田鶴浜村(鹿島郡田鶴浜 町)、稲垣郷安・新庄村 (鹿島郡鳥屋町新庄)、赤 尾関平・能登部下村(鹿 島郡鹿西町能登部下)、

サイコロジカル・ショート・ショート

マインドコントロール編(その29)

善人

大石ひろし

「だれか私の財布、盗んだんだわ・・・」
婦人科外来の安静室のほうから声が聞こえた。年 は二十三歳、独身。全身麻酔での小手術、医療保険 なしの自費支払い。その患者が目覚めるとすぐに騒 ぎ出した。

「だれもその部屋には入りませんでしたよ。もつと 調べたらどうですか」
白いスカートの裾がフレアになっている。ブルー のシャツの胸元は二つボタンがはずれ、肌の上に、

細い金の鎖に付いた小さな宝石が揺れていた。
(これはちよつと怪しいな)

信一はお嬢さん風の寸借詐欺の常習犯の話を連想し た。彼女は、しばらく安静室で自分の身辺を探して いたが、やがて診察室へ入ってきた。

「先生、財布を落としたらしいんです。家へ行っ て、すぐ持ってきますから返してください。それま でこれを預けていきます。夕方までに絶対持ってい きます」

広いつばの白い麦わら帽子だった。

(こんな安価なものを本気で担保になると思ってい るのだろうか)

疑って見たものの、それ以上、信一は彼女を責め られなかった。

善人はだまされやすいという。しかも何回も続け てだまされる人や、はつきりと疑っていないがだま される人もいる。心理学の分析によれば、その理由 は人の心の一貫性だという。

善人は、自分の利益に関係なく、「良い人」になり たいと思っている。そして他人の悪意も信じたがら

ない。

こんな非現実的なことを、なぜ、善人が行うかとい うと、それが彼に「心の安定」をもたらすからである。つまり、自分の心の中の「善人という理想像」と他人に悪意があるかもしれないと疑う「現実の自分」が一致しないので、彼の心は苦しむ。この苦しみから逃れ心のやすらぎを得るために、彼はだまされてもだまされても、他人の善意を信じているのである。

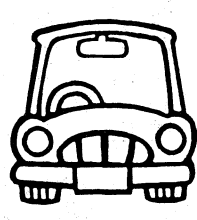
多くの人は、こんな善人の要素を持っており、そ んな平均的善人の善意を利用する詐欺師がいる。

横浜の元町には貴金属、外国の酒や食べ物物の店が 軒を連ねている。

「ちよつと失礼、君らに頼みたいことがあるんやけ ど・・・」

中年のサラリーマン風の男が、都内の大学生二人 に声をかけた。一九八九年四月三日のことであつ た。

「あそこのおばさんに、井上が呼んでいるので事務 所の前まで来てほしいと言ってくれませんか」



燃料のぐい注文は 保険医協会まで

保険医協会では、日本石油(三谷石油)およびエッソ(石川米油)の暖房用燃料、自動車用燃料(全国カード)を取り扱っています。

配達可能地域や価格については保険医協会まで、お問い合わせください。

TEL: 076-222-0373

大きな頼み事であったので、大学生らは簡単に引き受けた。

「いいですよ」

「ああ、ついでと言っちゃ何だが、おばさんにこの封筒も渡してもらえませんか」

現金が入ったような、ずっしりと重い封筒を差し出した。

大学生がたばこ屋に向かおうとすると、男はすまなそうな顔をしてこう付け加えた。

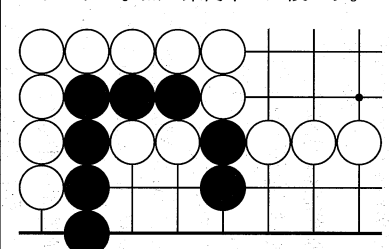
「その封筒には大事なものが入っています。信用しない訳じゃないが、申し訳ないけど、君らが帰ってくるまで財布を預からせてもらえませんか」

二人がたばこ屋に向かっている間に、男は三万九千円の入った二人の財布を持っていなくなつてしまった。

これは東京や横浜の街角で、ある男が通行人から二百五十件、八百万円の金を巻き上げた事件である。

■出題者 七段 向井富治 (金沢市・内科)

高林師範の指導碁会からで、白番でどうなりますか。黒は乗岡栄一六段です。



(解答は2面にあります)